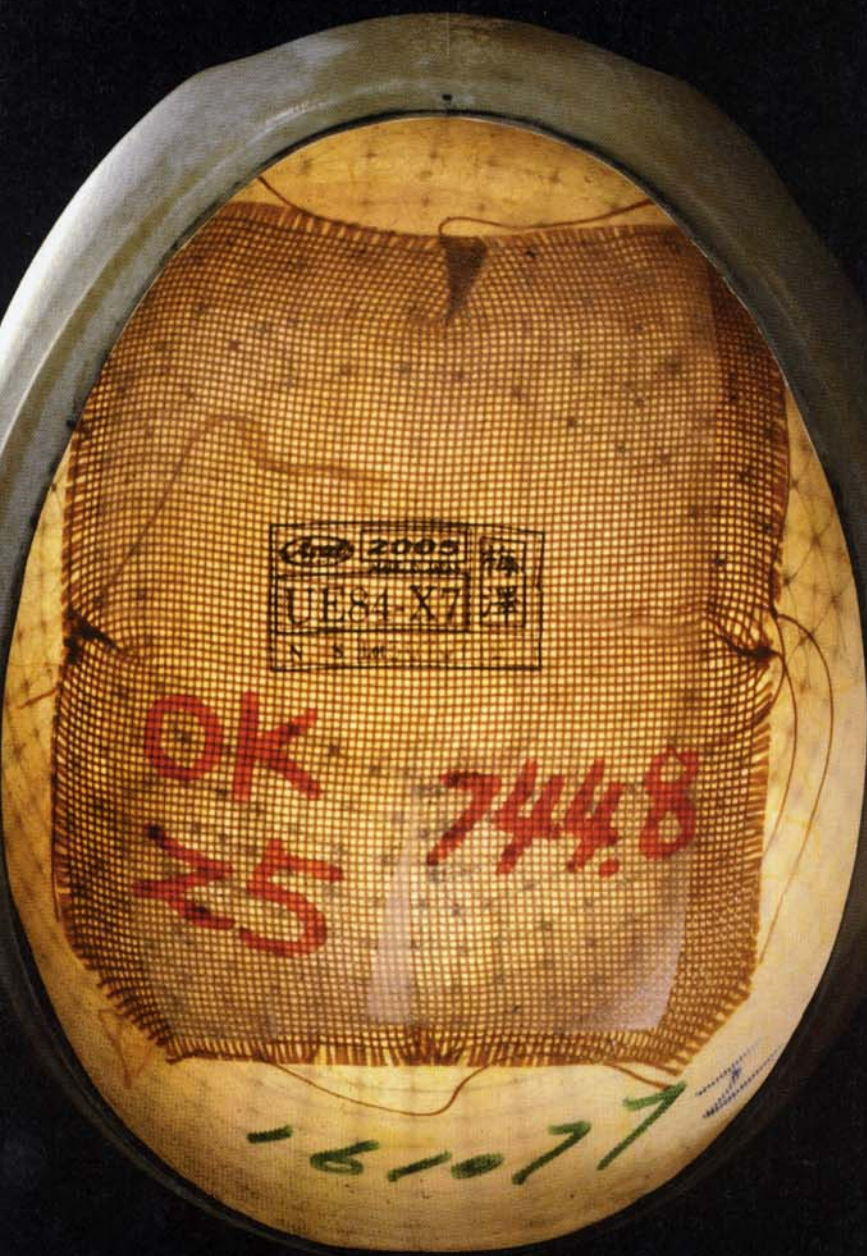


シェルの内側 30年を迎えたアライの伝統



完成品では見ることのできないシェルの内側をご覧ください。シェルの記号、それを作った人の名前などいろいろな記号があります。この中のミドリの6桁の数字、これは成形部門でシェルの厚みを確認した個別ナンバーです。そしてOK25は、検査部門でシェルの構成と厚みを確認し、問題なしの証です。このようにアライでは、世界でも例のない、シェルの厚みを全数それも2度にわたり検査しています。

シェルの2重検査を始めたきっかけは、30年以上前の事です。本格的レース活動を開始して、当時の有名レーサーがアライを使用することになり、そのレーサーのヘルメットを作る際に、当時の開発スタッフが、成形部門に特別に依頼し出来上がったシェルを、さらに厚みを確認して完成させていたのです。その様子に気付いたアライのトップが、レース活動も、人様の頭を守るために行うものだ。安全の要となるシェルは、レーサーに特別なものを作るならば、お客様全てに特別なものを作らなければならない。そのシステムを築く必要があると宣言し、試行錯誤の上、レーサー向けに一切特別な成形を施さず、それでも間違っただけでも万一でも供給する可能性が極力少ない、シェル厚み2重検査体制をスタートさせたのです。

シェル厚み2重検査体制がスタートしたのは、1977年の3月16日です。もう既に30年を越えています。世界チャンピオン、ニッキー・ヘイデンなど、トップレーサーとお客様のアライは、まったく同じものです。とお契めできる根拠は、こんな伝統に裏打ちされているのです。



SNC RX-7 RR4 HAYDEN-GP